

HEART to HEART



令和7年12月25日(木)発行

12月には夢育劇場をはじめ、会話科に関する行事がたくさんありました。

みんなで作り上げた「夢育劇場」

12月6日(土)に、全校児童による劇、ミュージカルを発表する「夢育劇場」を行うことができました。1, 3, 5年生の創作ミュージカルの部と2, 4, 6年生による創作劇の部に分けて行いました。

1, 3, 5年生のミュージカルでは、最後のミュージカルを披露する5年生が、新曲の歌詞やダンスだけでなく、環境問題や自分たちにできること、将来の夢を組み入れた昨年度よりも2倍に増えたせりふなど、覚えることがたくさんありましたが、練習を積み重ね、徐々に自信を高めていきました。



2, 4, 6年生の劇は、ドリフターズのコントのオマージュや新喜劇などのコメディ要素が多く含まれており、大きな変化が見られました。

戸田先生、齋藤先生から、せりふの言い方や、立ち位置、表情などの演技について教えていただきました。練習を重ねるうちに、初めは恥ずかしがっていた児童たちも、一人一人が自信をもって演じることができるようになりました、みんなで協力して最高の劇を作り上げることができました。



稻見けい子先生、朋子先生にご指導いただき、5年生は感情を込めたせりふの言い方や、せりふがないときの演技やつぶやきの工夫、3年生と1年生は、掛け合いの場面でより感情が表れるような動きについて練習するなど、よりよいミュージカルをみんなで目指すことができました。



劇、ミュージカルとも子供たちの頑張りを認め、励ましていただいた保護者のみなさまのおかげで大成功を収めることができました。みなさまからの心温まる感想に、子供たちも教員もさらに喜びを感じることができました。

アンケートへのご協力や鑑賞者優先席の入れ替え制に、ご理解とご協力をいただきありがとうございました。

2年生きよきたふれあい楽習(坊主めぐり, 百人一首)



12月11日(木)に、保護者の方とふれあいながら学ぶ「板戸ふれあい楽習」の一環として、ふれあい学習を行いました。

2年生のことばの時間では、宇都宮市にゆかりのある百人一首について知り、少人数のグループに分かれて、「坊主めぐり」を楽しみました。「坊主めぐり」は、読み札の絵を使った簡単なルールで、最後まで勝敗が分からなかったため、子供から大人までドキドキしながら一緒に遊びました。

児童の振り返りでは、「坊主めぐりで遊ぶことができて楽しかった。」や、「百人一首って楽しい。」などの感想があり、これから百人一首を覚えるきっかけになればと思いました。楽しいひと時となり、次の学習への意欲が高められたことが伝わってきました。ご参加いただいた皆様には、講座へのご理解とご協力をいただき、ありがとうございました。

4年生 きよきたふれあい楽習(百人一首)

12月18日(木)に、きよきたふれあい楽習で百人一首に親しました。

最初に、百人一首が私たちの住む宇都宮と深いゆかりがあることを学びました。鎌倉時代、宇都宮城主であった宇都宮頼綱公が、京都の歌人・藤原定家と親交を深めたことがきっかけとなり、定家が百人の歌人の秀歌を選んだのが百人一首の始まりです。子供たちは「宇都宮の人がきっかけだったんだ！」と、身近な場所が歴史的な文化の誕生に関わっていた事実に、目を輝かせて驚いていました。

その後、読み札と絵札の違いや、競技の鍵となる「決まり字」について学習しました。そして、いよいよ百人一首に挑戦です。上の句を読み上げ始めると、それまでの賑やかな雰囲気は一変し、心地よい緊張感に包まれました。相手より先に札を取ろうと、読み手の声に注意深く耳を傾け、札を凝視していました。

活動後には、「決まり字を覚えて、次はもっとたくさんの札を取れるようになりたい。」といった前向きな感想が多く聞かれました。今回の活動は、地域の歴史を誇りに思いながら、伝統文化に親しむ貴重な機会となりました。

